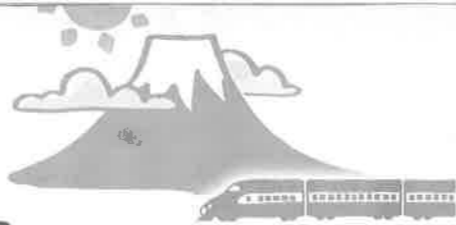




ちょっと懇いませんが。

江口裕之の

日本のことを伝えよう 第3回



今回のお題

武道

日常で特に意識することのない日本の伝統的な武道ですが、その歴史や儀式などの「なぜ」を振り返ってみましょう。

1. How are Japanese martial arts different from Western competitive sports?

Japanese martial arts, including judo, kendo, and *kyudo*, are unique in that they emphasize not only physical effort and skill, but also courtesy and mental discipline. They originated in the middle ages as samurai warriors' techniques to kill their enemy, but with the modernization of Japan in the late 19th century, their popularity declined. Later, they were revived in their present forms, combining traditional philosophies and elements of modern competitive sports.

2. Why do many sports of Japanese origin, such as judo and kendo, have names ending in "do"?

Do literally means "the way," and it refers to the road to self-discipline and good manners. The sports that originated from Japan's traditional martial arts often include this suffix. *Do* is also used as a suffix for other art forms requiring self-discipline and good manners, such as *kado*, flower arrangement, and *chado(sado)*, tea ceremony.

3. Why do kendo practitioners shout a lot?

To score a point in a kendo match, simply hitting the target is not enough. When you attack, you have to give a high-spirited shout to indicate the target point on the opponent's body. This action is called *ki* (strong spirit). *Ki* is one of the three core concepts of kendo known as *ki-ken-tai*. *Ken* refers to swordsmanship, and *tai* the ability to maintain the correct form.

4. Why is sumo so ritualistic?

Sumo originated as a court ritual of fortune-telling based on Shinto, Japan's indigenous religion. Therefore, sumo retains many ritualistic features. For example, sumo wrestlers stomp their feet in a stylized manner before their bouts, which is derived from a rite of driving away the evil spirits lurking in the ground. Sumo wrestlers also scatter salt onto the ring, a Shinto rite of purification. Even the ring itself is modeled after a Shinto shrine, as is evident in the roof above the ring.

Words and Phrases

1. martial arts: 武道
courtesy: 礼儀正しさ
mental discipline: 精神修養
modernization: 近代化

2. self-discipline: 自己鍛錬
good manners: 礼儀作法
suffix: 接尾辞

3. high-spirited: 気合いを込めた
target point: 標的
swordsmanship: 剣の技術

4. ritualistic: 儀式的な
fortune-telling: 吉凶の占い
indigenous: その土地に固有の
a rite of purification: 清めの儀式

1. 日本の武道は西洋の格闘技とどう違うの?

柔道、剣道、弓道などの日本の武道が西洋の格闘技と異なる点は、体を使った訓練や技術だけでなく、礼儀作法の習得や精神の修養などにも重きが置かれていることです。武道の前身は、武術（柔術、剣術、弓術、馬術など）と呼ばれ、近世以前には、武士が戦場で敵を倒すための技術として修練されていました。明治時代になって武士階級が消滅し、文明開化の波が押し寄せると、武術は野蛮で時代遅れのものと見なされ衰退していきました。しかし、のちに、柔道の祖・嘉納治五郎が科学的な運動理論に基づき、武士の時代の精神面と近代的な格闘技の両側面を持ち合わせた柔道を確立すると、剣術や弓術も同じように「剣道」「弓道」と呼ばれる武道へと発展していったのです。中でも柔道は、1964年の東京オリンピックで正式種目になって以来、体重別階級制やポイント制などの西洋の格闘技的要素が導入されるようになりましたが、それでも柔道が持つ精神性は、今でも受け継がれ続けています。

3. 剣道家はどうしてあんなに叫び声を上げるの?

剣道の試合で一本を取るには、単に標的を打つだけでは不十分です。攻撃の際に気合いを込めて、「めーん!!」「こてー!!」「どー!!」などと、狙った部分を大きな声で叫ばなければ有効ポイントと見なされません。この叫びは「気」と呼ばれ、剣道の重要な概念である「気」「剣」「体」の1つとなっています。ほかの2つについていうと、「剣」は剣さばきの技術で、竹刀の正しい部分で相手の標的を正確に捉える必要があります。「体」は常に正しい姿勢を保つことで、特に打ち終えたあとでも姿勢を崩さず、集中力を保つことが大切とされます。ゴルフやテニスなどで、クラブやラケットを最後まで打ち抜く一連の体の動きのことを英語でfollow throughと言いますが、これに似ています。面白いのは、日本ではサッカーや野球でもスポーツの種類を問わず「気」、つまり気合いを重視する傾向があることです。武道や武士道の精神は西洋生まれのスポーツにも影響を与えているようです。



いかがでしたか。「武道」はこれからも大切に伝えていきたい日本の文化の1つですね。次回は「伝統芸能」についてです。

著者プロフィール

江口裕之 CEL 英語ソリューションズ 最高教育責任者
1957年長崎県生まれ。国立北九州高専化学工学科卒業後、プロのミュージシャンとして全国で演奏活動を展開後、通訳・翻訳家に転身。1989年から一貫して通訳案内士の育成に携わる。2001年、東京にCEL 英語ソリューションズを設立。2009年よりNHK Eテレ英語教育番組「トラッドジャパン」講師。著書に『新・英語で語る日本事情』(The Japan Times)ほか多数。音楽CDに『My Good Ol' Songs』(アソルハーモニクス/RADIO DAYS)。

2. 日本で生まれたスポーツの多くが「柔道」「剣道」のように「道」という言葉を伴うのはなぜ?

「道」は文字通り「みち」の意味で、自己鍛錬と正しい礼儀作法を身につけるための方法を意味します。武道は、体の運動能力だけでなく精神の修養にも重きを置くため、「道」という言葉を伴うことが多いわけです。西洋スポーツの目的は「勝つ」ことにほかなりませんが、武道の場合、もちろん「勝つ」ことも重要ですが、目標に向けて努力をするプロセスが重視されます。いわば、「悪い勝ち方」もあれば「良い負け方」もあるわけです。「道」は、そのような武道の概念をよく表していると言えます。また、「道」は格闘技だけでなく、茶の湯を「茶道」、生け花を「華道」と呼ぶなど、精神修養や礼節を大切にす日本文化のほかの分野でも用いられる言葉であることを指摘しておく必要があるでしょう。ちなみに、「書道」という語は古くから使われていますが、多くの「〜道」という言葉は、明治時代に「柔道」という新しい語の登場の影響を受け、「剣道」「弓道」などととも、精神面を強調する意味合いで生まれていった造語です。

4. 相撲はどうしてすごく儀式的なの?

相撲に関する記述は『古事記』などにも見られ、その起源は古代に求められますが、現在見られるような相撲の歴史は、平安時代の宮中行事にさかのぼります。天皇の前で相撲をし、勝ち負けからその年の吉凶を占う神事がその起源です。そのため、相撲には様々な儀式的特徴が見られます。例えば、試合前に力士が「四股」といって大きく足を上げて地面を足で踏み鳴らしますが、これは地面の下に潜む邪気を追い払うための神道の儀式に由来します。力士はまた、土俵に塩をまきますが、これも神道の清めの儀式から来ています。土俵自体も神社をモデルにしており、屋根があります。この屋根は、伊勢神宮の「唯一神明造」と呼ばれている屋根と同じ造りになっています。これはトリアプですが、両国国技館の土俵の屋根には柱がなく、天井から宙づりにされています。かつて、屋根は四本柱で支えるものでしたが、1952年の9月場所から取り除かれたそうです。これは翌年から始まるNHKのテレビ実況中継を見据えてのことだったとか。当時、柱の重要性を巡って激しい議論があったそうです。